OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	お寺の利便性とその活用のあり方 ： 東日本震災後のお寺の宿泊提供活動を通じての事例
Author(s)	大原, 千心; 竹内, 武昭; 中尾, 睦宏 他
Citation	宗教と社会貢献. 2012, 2(2), p. 87-97
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/22997
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

お寺の利便性とその活用のあり方

―東日本震災後のお寺の宿泊提供活動を通しての事例―

大原　千心[*]・竹内　武昭[†]・中尾　睦宏[‡]・山岡　和枝[§]

Convenience and utilization of temples:
Accommodation provided through temple activities after the Great East Japan Earthquake

OHARA Chisin, TAKEUCHI Takeaki
NAKAO Mutsuhiro, YAMAOKA Kazue

1. はじめに

寺院は全国に約 8 万箇寺あり、教会や神社，その他の宗教団体の施設を含めると，細分化された拠点が存在するといわれている［平野 2011］。これまで、宗教施設は簡単に消滅・移転しないものであるがゆえに、地域復興において住民をまとめる機能があったことが報告されている［寺沢 2011］。しかし、実際には現在の日本人の宗教観に関して、約 7 割が所属先やコミットメントがないという意味で無宗教を自認しているという意識調査結果が報告されている［統計数理研究所 2008］。海外の宗教団体はアメリカでのキリスト教、タイでの上座仏教といったように公定宗教（公共宗教）としての地位を確立し、公民協同の対象に組み入れられている[櫻井 2011］。しかし日本では、過去の歴史的宗教的背景が異なるため［Nakao & Ohara 2012］、政教分離や布教活動の禁止など法律や公共性の問題が存在し、宗教団体が公共的な支援を行う際には制限がある［白波瀬 2011］。

今回、東日本震災直後の数ヶ月は、被災地の旅館やホテルは満室で確保

[*]帝京大学大学院　公衆衛生学研究科・修士課程 ookumanekochisinnbaba@gmail.com
[†]帝京大学大学院　公衆衛生学研究科・講師 takeakij@post.harvard.edu
[‡]帝京大学大学院　公衆衛生学研究科・教授 mnakao@med.teikyo-u.ac.jp
[§]帝京大学大学院　公衆衛生学研究科・教授 kazue@med.teikyo-u.ac.jp

が難しい状況であり、ボランティアは、テント持参や車内泊、また野宿や避難所で宿泊していた。そのため、県や災害対策を設置した市町村社協、NPO が主体となり、公的施設を宿泊場所として開放する等の対応が取られた。宮城県仙台でも、上記の状況を知り、ボランティアのための無料宿泊を提供したお寺があった [東北教区災害ボランティアセンター http://otera-vc.jimdo.com/2011]。このような中で、筆者の一人は僧侶としてボランティアに参加した際、無料宿泊場所を一般に公開しているにも関わらず、お寺を利用する一般のボランティアが少なく、災害支援に役立てているかどうか疑問に感じた。そのため宿泊記録のデータをまとめることで、今後の支援に役立つ情報が得られるのではないかと考えるに至った。

本研究の目的は、震災時におけるお寺の無料宿泊を一般ボランティアの宿泊期間という観点から評価し、震災等の災害時におけるお寺の利便性と有効活用について検討することである。この研究の知見は、一般ボランティアのための宿泊提供をお寺の災害支援の一つとして各宗教施設に提案していくための情報提供のあり方や、宗教施設を有効活用するネットワーク構築に取り組むための一つの有用な情報になると考える。

2. 対象と方法

2011 年 3 月-2012 年 1 月までの震災ボランティアとして、宮城県内の某お寺で登録した宿泊データを活用した(以下、A 団体と記す)。お寺の場所は宮城県仙台市青葉区で、データベースは宮城県浄土真宗のお寺に滞在した 895 名(71.4%)のお寺関係者と 395 名(28.6%)の一般ボランティアが含まれていた。参照群として 2011 年 4 月-2011 年 12 月までのホームページ上に一般に公開されていた某公民館の報告書データを使用した(以下、B 団体と記す)。公民館(水沼東部構造改善センター)の場所は宮城

県石巻市水沼で、データベースは宮城県勤労者山岳連盟と交流センターに滞在した一般のボランティア 998 名が含まれていた。B 団体を参照群として選んだ理由は、1) 全国的なボランティア宿泊期間データがなかった、2) 宮崎県内で宿泊期間の集計データが公開されていたのはB団体だけであった、3) B 団体は知人を通して、特別に公民館を貸し切った団体で、A 団体と活動内容が似ていた点が挙げられる。評価指標としては各団体の、平均宿泊日数、宿泊人数、宿泊利用率の月別変化を調べた。宿泊利用率の算出は、厚生労働省の保健統計「病床利用率の計算式」を参考にした(1)。

3. 結果

表 1 に示す月ごとの平均宿泊日数では、A 団体のお寺関係者 2.8 日、A 団体の一般ボランティア 5.4 日、B 団体の一般ボランティア 1.4 日と、A 団体の一般ボランティアが最も滞在期間が長かった。月ごとの平均宿泊日数でも、どの月も A 団体の一般ボランティアが長かった(図 1)。また A 団体のお寺関係者は、滞在日数の変動が少なかった。図 2 には月ごとの宿泊人数の経時変化からは、3 グループの中で A 団体のお寺関係者が震災直後より活動を開始できていたことが示されている。4 月より A 団体の一般ボランティアも増加し始め、5 月、6 月、7 月と B 団体の一般ボランティアが増加していた。一方、お寺関係者は夏以降は減少していた。

図 3 の月ごとの宿泊利用率は、3 グループとも 20%未満の利用であった。A 団体では、お寺の宿泊可能人数を広さを考慮して 100 床と想定した場合、お寺関係者だけで利用した場合と、一般ボランティアだけで利用した場合では、利用率はお寺関係者の方が震災直後で高く、夏以降減少していた。他方、お寺の一般ボランティアと B 団体の一般ボランティアは、夏の利用が多い傾向が認められた。参考のため、実際にA団体での一般ボランティアの宿泊者の感想事例を表 2 にまとめた。

4. 考察

本研究の結果では、A 団体と B 団体との間で、一般ボランティアの長期

滞在日数に 3 倍以上の差があった。この理由の 1 つとして、お寺では施設に宿泊可能なアメニティがそろっていたことが考えられた。お寺では、布団セットやお風呂がある一方、一般ボランティアが借りていた公民館は寝具やお風呂がなかった。被災状況や地理的な環境などの相違も同等とはいえないが、特に、B 団体は山岳連盟というアウトドアの経験者の集団だったが、活動内容は力仕事が多く疲れ易いうえ、さらにお風呂がないことや、寝具なども加わると荷物が多くなることから、長期滞在は難しかったのではないかと考えられた。

３月の時点で、A 団体のお寺関係者の宿泊が多かったのは、宿泊情報の伝達にお寺のネットワークが利用された可能性が考えられた。また滞在日数が安定していることから、僧侶という職業集団の特徴としてボランティアに参加し易い傾向があるかもしれず、今後の調査が必要と考える。

A 団体の宿泊利用率で一般ボランティアの利用が低かったのは、自治体等のボランティアのための宿泊紹介欄のリストに入ってなかったことや、インターネットで「無料宿泊」「浄土真宗」等とお寺関係のキーワードをいれないとヒットしなかったこと等も含め、情報が限られた範囲でしか行き渡ってなかった問題点が考えられた。

実際に宿泊した一般のボランティアの主な感想をみると、宿泊環境が整っていて、お寺がボランティア活動の支援に役立っていたものと受け取れた。第一筆者自身も実際に何度かA団体に滞在し、情報共有ができること、無料宿泊でアメニティが揃っていたことから、長期滞在しやすい環境が整われていたと感じた。

本研究は震災時に実際にボランティア活動の拠点となったお寺を事例として取り上げ、それをもとに、より一般的なお寺の支援のあり方についての検討を試みた。本研究の限界点としては、仙台と石巻では同じ宮城県内とはいえ団体の地理的場所や環境が異なること、また一般ボランティアのデータ数や内容に限りがある点が挙げられる。比較可能性には十分な配慮が必要である。またA団体は、浄土真宗の資金援助があったが、一般的に無料宿泊をできるお寺は限られている。お寺は、個人の住宅としての私的な資源か、コミュニティーの場所となる公的な資源かについても、お寺側と一般者側双方の認識についてデータがほとんどない状況であり、今後の課題とする必要がある。

今後震災のような災害時には、宿泊スペースが限られてくる中で、お寺の無料宿泊提供という支援のあり方は、実施可能性の高い効果的社会貢献となり得るのではあるまいか。お寺関係者内でネットワーク機能を十分発揮できるよう構築することは、より社会貢献できる活動拠点ともなることにつながるであろう。宿泊施設を有する各宗派の施設は全国にあるので、今回の事例をふまえ、使用できるよう各宗派に発信していくことも可能である。また一般のボランティアにも使用できる公共的に開かれた震災支援にもなりうるし、お寺の無料宿泊施設は、宗教者が社会貢献していく実践的方法の一つとして可能性を含んでいるものと考える。

5. 結論

お寺は、アメニティ-が充実しており、災害支援の際の長期滞在にむいている施設である。しかし、実際の利用者は、お寺関係者が多く、一般にむけて社会的な認知ができていない。この研究の知見は、一般ボランティアのための宿泊提供をお寺の災害時支援の一つとして各宗教施設に提案するための情報提供のあり方や、またそこから見えてきた宗教施設の公共性の課題を検討するための情報の一つになることが期待される。

註

(1) 宿泊利用率は、厚生労働省ホームページの保健統計「病床利用率の計算式」を参考にした。http://www.mhlw.go.jp/toukei/kaisetu/index-hw.html
計算式
分子：　入院延べ患者数
分母：　病床数(床)×年間入院診療実日数
病床利用率：

$$\text{年間病床利用率} = \frac{\text{月間在院患者延数の1月〜12月の合計}}{\text{（月間日数×月末病床数）の1月〜12月の合計}} \times 100$$

(2) 実際にお寺で滞在した方々の感想は、一般公開されているブログを参考にした。
1、http://otbblog.com/2011/05/31/sendai-hongwanji/(2011/05/31)
2、http://www.geocities.jp/chubutsu_tokyo/chubutsu_OB_kai/04_katsudou_houkoku/h23houkoku/houkoku23_page.html(2011/10/22~23)

3、 http://blog.livedoor.jp/belleblog/archives/65648750.html (2012/04/10)

参考文献

イチローカワチ 2010 『ソーシャル･キャピタルと健康』日本評論社。

稲場圭信 2011 『利他主義と宗教』弘文堂。

櫻井義秀 2011 「ソーシャル・キャピタル論の射程と宗教」『宗教と社会貢献』1(1): 27-51。

白波瀬達也 2011 「野宿者支援における宗教の社会参加―Faith-Related Organization の観点から」『宗教と社会貢献』1(1): 111-118。

寺沢重法 2011 「宗教と地域的活動」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』11: 245-266。

寺沢重法 2011「宗教活動は社会貢献活動か？――「宗教団体の社会的な活動に関するアンケート調査」の分析――」『宗教と社会貢献』1(1): 70-101。

寺沢重法 2012「アメリカにおける「宗教と社会活動」研究の動向 」: *American Sociological Review, American Journal of Sociology, Journal for the Scientific Study of Religion, Review of Religious Research, Sociology of Religion* のレビューを通じて『宗教と社会貢献』2(1): 45-60。

統計数理研究所 2008 『日本人の国民性調査 - 宗教　第 12 次』。

Nakao M. & Ohara C. 2012 “The perspective of psychosomatic medicine on the effect of religion on the mind‐body relationship in Japan.” *Journal of Religion and Health*, in press (Mar 21. [Epub ahead of print]).

平野武 2011 「宗教法人の認証の厳格化について」『龍谷大学法学会』44(3): 1- 41。

表１　各団体の宿泊者の特徴

	A 団体（お寺）		B　団体(公民館)
	お寺関係者	一般ボランティア	一般ボランティア
利用者人数	895(71.4%)*	358(28.6%)*	不明
利用者人数 *リピータ含む *月をまたぐ人２カウント	1290(73%)	476(27%)	998 *月をまたぐ人なし
県外人数 県内人数	1248(96.7%) 42(3.3%)	473(99.3%) 3(0.6%)	932(95.8%) 66(4.2%)
平均滞在日数/月	2.8(5.3ヰ)	5.4	1.4
性別　男性	436(72.3%)	158(58.3%)	不明
年齢	38.3±16	38.0±15	中高年
職業	僧侶 寺関係者 寺学生	勤労者 不明 学生	勤労者 不明
主な活動内容	瓦礫・ドロ除去 お茶会 物資輸送 葬儀等	瓦礫・ドロ除去 お茶会 物資輸送等	瓦礫・ドロ除去 土砂の撤去 物資輸送等
宿泊施設	100 名収容。お寺内の幼稚園とマンション使用 寝具セット、お風呂あり、 トイレ・厨房あり、自炊		50 名収容。震災数ヶ月はテント。その後、センターを借りる。寝具持参、お風呂なし、 トイレ・厨房あり、自炊
施設場所	宮城県仙台市		宮城県石巻市

＊ 利用者人数は,リピータと月をまたいだ人数で平均滞在日数を計算。
＃ 長期滞在者(住み始めた人)をカウントした場合の平均滞在日数。

表２　A団体に宿泊した一般ボランティアの主な感想

	感想
1	それほど宗教色も強くなく、夜お酒を飲んでも問題ないです。お寺関係で全国から集まった方々が 3 分の 2 で、残りは一般の方といった構成でした。九州から１人で来たっていう一般の女性なんかもいらっしゃいました。このお寺だとボランティアに必要な装備も貸し出ししてくれる。仙台市内のホテルは未だに満室なところが多かったりするので、寝泊りできればいいって方には東北教区災害ボランティアセンターをおすすめしておきます。(2011/05/31)
2	仙台別院の中にあった幼稚園の施設がボランティアの宿泊や打ち合わせの場所になっています。一応寝具は用意されていますが、大人数となると不足しますので私は寝袋を持参しました。浄土真宗に無関係な人や、別院が用意した活動以外の活動をする人で、単に宿泊施設として別院を利用している人もいます。(2011/10/22-23)
3	宿泊に必要な最低限のものを持ち、それなりの服装をしていれば、すぐにもボランティア活動に出かけることができる。 被災地はまだまだ多くの人を必要としている。上述のように西本願寺仙台別院に宿泊すればすぐにボランティア活動に参加することができる。たとえば週末の１泊２日でも、是非多くの人に来てもらいたいと思う。実に様々な地域から様々な年齢職業の人たちが来ている。短期の人もいるし長期滞在している人も大勢いる。(2012/04/10)

上記は、一般公開されているブログ[註2]から、実際にお寺で滞在した方々の感想を掲載。

図1　各団体における月ごとの平均滞在日数

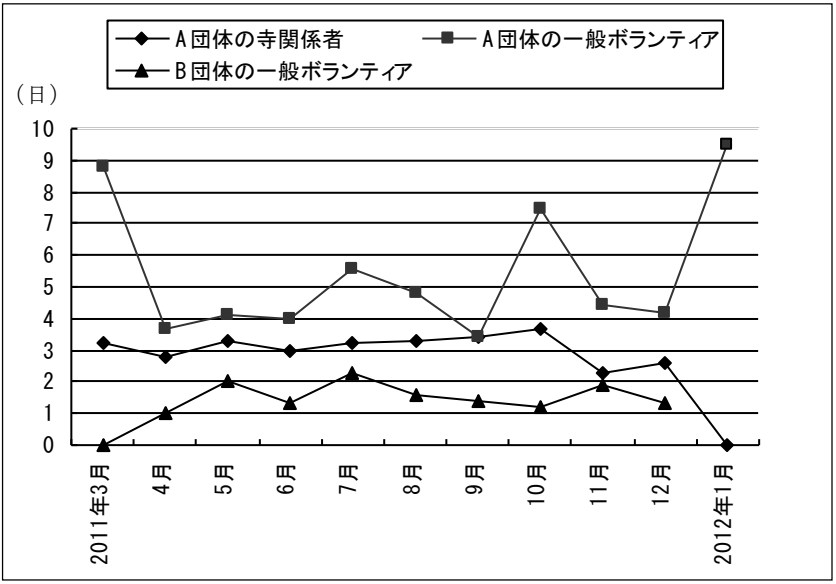

図 2　各団体における月ごとの宿泊人数

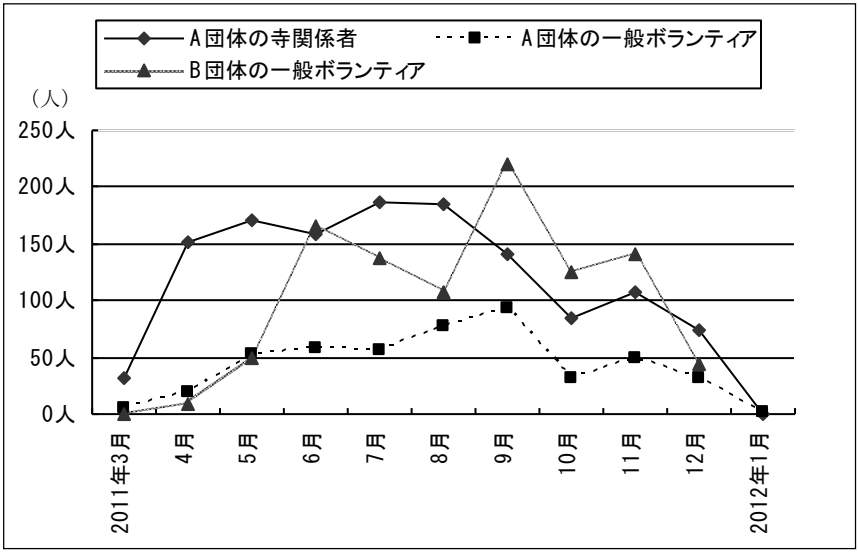
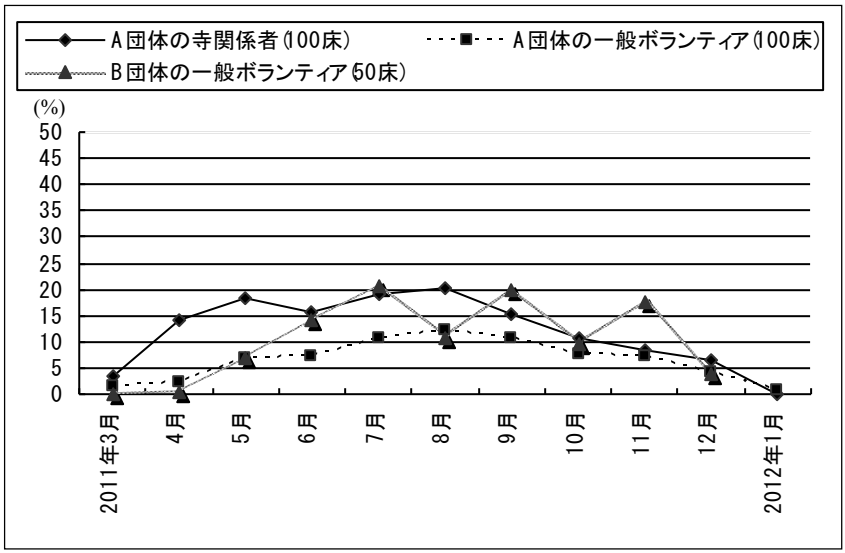
図 3　各団体における月ごとの宿泊利用率(%)